

会 議 録

1 会議名

令和4年度第3回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和4年7月25日（月）午後6時30分から午後7時54分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、市川 禅（副会長）、
五十嵐里枝、池田憲雄、牛木幸一、内山幸一、荻原慶一、栗間良子、
高橋邦夫、高橋秀樹、藤井英夫、渡辺恵子、渡邊瑞穂（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：高橋秀樹委員、藤井委員に依頼
- 議題【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.1「有田区における『地域活性化の方向性』の作成について（案）」に基づき説明

本日は、まず「2 今後の進め方（例）」の検討をお願いしたい。その後、地域活性化の方向性を作成するにあたり、地域の魅力、個性、次世代に残していきたいものなど意見を出し合っていたいただきたい。事務局としては、3つのグループに分かれて、班別協議を行っていただければと考えている。

【熊木会長】

今後の進め方について意見を求めるがなく、事務局案で進めることとする。

次に「有田区の魅力、個性、次世代に残していきたいもの」についての班別協議について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・当日配布資料「班別協議について」に基づき説明

【熊木会長】

それでは、各班に分かれて協議をお願いしたい。

— 班別協議 —

（再開後）

班別協議で出された意見を各班の発表者から報告していただく。

【市川副会長】

A班の協議内容を発表する。

○魅力

自然豊かで、かつ、交通の便もいいからこそ工場も多く集まるし商業施設も集まるので住みやすい。

○特性・個性

若者世帯、高齢者世帯が共に多い。国籍も問わずいろいろな所から多くの方が集まってきて、上越市の中でも人口が増えている。

人が集まってくるが、なかなか縦横の交流がない。そういった人たちにどうやって魅力、特性・個性を伝えていくかが大事ではないか。

歴史的にもいろいろあった所で、昔の春日新田にあった馬市、北国街道という素材がある。それを上手く伝えていくと、ここに住んでいる人により魅力的なまちだと感じていただけるのではないか。

○次世代に残していきたいもの

お祭り、体育祭、各町内で実施している季節のイベントを絶やすことなく続けていければ、地域住民の会う機会が増えるし、コミュニケーションをとる機会も増えて、普段、隣近所と話す機会もないと思うので、非日常的な空間で意見交換をして交流してもらうことが次世代に残すことに繋がっていくのではないかな。

【樺沢副会長】

B班の協議内容を発表する。

○魅力

大型商業施設もあるので便利であり、生活環境も整っている。

○特性・個性

他地域とのつながりが実現できていない部分がある。

防災関連の話で、保倉川と関川が交差していて、今までも水害で大変なこともあったので、力を入れていったほうがよいのではないかな。

○次世代に残していきたいもの

各町内で実施している夏まつり、さいの神、蟹池の伝説の紙芝居、「我が有田 希望満つ」という冊子をもっと増刷して皆さんに知ってもらいたい。

下門前の400年の歴史等、歴史的なものを展示して保管してほしい。

【渡邊瑞穂委員】

C班の協議内容を発表する。

○魅力

生活環境がよい。特に直東学園を中心とした学校コミュニティに力が入っていて雰囲気が良い。

○特性・個性

カルチャーセンターを中心に未就学児の子育てについて、母親のコミュニティや親子の愛情形成の市民活動ができている。

学校について、コミュニティスクールが全国に誇れるものである。

そして、高齢者に関する活動の3本立てで、全国に先駆けた特徴のある取組であるということが、皆さんの話を聞いて勉強になった。

それが盛んになっていることによって、世代間のつながりが生まれていると思う。

○次世代に残していきたいもの

町内の夏まつり、運動会。イベントとして、有田地区全てで考えると運動会のみだという意見が出て、有田地区共通のイベントがあるとさらによい。

市民の活動が盛んなので、そういったものがすべてつながるようなイベントが1つあるとよい。

地域の歴史として、学校の活動が盛んであり、昔からの歴史もそうだが、今の活動がどのように成り立っていて、だから有田地区は子育てがしやすかったり、小学生が安心して1人で出歩けるような環境であるということに焦点をあてて、これまでの取組を史書のようなものにまとめてはどうか。

【熊木会長】

各班の発表について、質疑や意見を求める。

【高橋邦夫委員】

有田区の特長・個性で言い足したいのだが、町内会長協議会を中心として専門的な分野を担当する団体がきちんと動いている。例えば、安全・安心であれば、交通安全協会とか、高齢者の関係だと、全町内ではないが有田地区の老人クラブがあり、福祉の関係で有田福祉の会がある。防災では、有田地区の消防団で毎年訓練をしている。学校教育関係では、直東学園の組織で動いている。社会教育関係では、わくわくフェスタがある。それぞれ、町内会長協議会がうまく調整しながら、専門分野のところは実行部隊となって実施しているのが大きな特長だと思う。

【高橋秀樹委員】

最初の表題の決め方が抽象的である。これをまとめていく時にまとめづらいのではないかと。まとめたものをどうやって具体的に行動に結びつけるかというストーリーがないと、ただ書いてこんな話だというふうにならないようにしてほしい。それと、残念ながら地域協議会は実行部隊ではないので、そのためにどうやって周りを動かしていくかも含めて、2ステップか3ステップを考えないと、ただ意見を出して書いて提案したという、他力本願にならないような仕掛けをしてほしい。

【高橋邦夫委員】

地域の方から、質問された。今回出た市議会だよりの中に地域協議会のことが載っていて、9月を目途に事業提案に向けた検討を進め予算要求していくと記載されていたが、有田区ではどのようになっているのかという質問を受けて、今、地域協議会では市でどのようにしていくかはっきりしていない部分があるので、有田区としては、どんな考え

方でいくのか、私も答えにくかった。例えば、以前配られた「地域を元気にするために必要な提案事業」への提案がないと、提案内容についての予算要求はできない。その仕組みがどうなっているのか、地域活動支援事業は地域協議会に提案するのでわかるが、いわゆる地域を元気にするために必要な提案事業はどこに提案をして、予算要求はいたい誰がするのかがわからない。例を見た時に予算要求部分が何も載ってなくて、提案内容だけしかなかった。その部分の仕組みがわからない。まだ、そんなところまで話は進んでいないとしか答えていない。今の地域活性化の方向性の作成を並行して進めるという話だったが、9月に間に合うのか心配である。

【熊木会長】

間に合わないと思う。制度設計をきちんと決めていない限りは予算を含めてできない。来年度そういったことが可能かどうかは8月下旬の会長会議で発表はあると思う。それをもって判断するしかないと思う。先ほど高橋秀樹委員が言われたように、我々は実行部隊ではないので、そういったことが危惧されるわけである。我々は予算要求できるわけではないし実行部隊ではない。当初から言われていることだが、今は、会長会議を待つしかない。

他に意見を求めるがなし。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の協議会は、8月の会長会議後に行うこととし、9月上旬の開催を考えている。会長と日程を調整し、決まり次第お知らせしたい。

【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。